紙芝居講座（29）

この六月十一日から三日間、福岡市で山川均追悼講演会を開催した。このために山川菊栄女史が来福され、「山川均を語る」という話をされた。

菊栄女史が久しぶりに来福されたので懇談会をもつた。この催を開いていろいろ珍らしい方々が集まられた。遠く鹿児島から山川夫妻の昔からのなじみ浜田夫人が来られ、大杉栄の長女魔子さんもきてくださつた。またその昔、明治四十年前後のころ、筑後同志会を組織されたことのある阿部のぶ太郎氏も夜おそくまでその会に参加された。はなしは山川均の生涯に集まつたが、そのことは同時に日本の社会主義運動史を語りあうことでもあつた。はなしはいつまでもつきるところがなかつた。

いまわれわれも「新聞社会主義」で「山川均の生涯と思想」という連載講座を書きつづけている。山川均の生涯は、氏の自伝「ある凡人の記録」に詳しいのでこれは是非読んでいただきたい。

しかしこんなことが契機になつて、ここでも断続的に日本の社会主義運動史を書いたらと思うようになつた。このような学習も一つ必要なことであろうから。しかし紙面の都合もあつて、日本の革命家群像をとりあげながら運動史をつづつてみよう。堺枯川、幸徳秋水、大杉栄、そして山川均などがあげられるかと思う。もつともこれらの先駆者について語れば、数々の人物が登場してこなければならなくなるが、それも自由にやつてみたい。

まず最初に堺利彦の生涯と思想からはじめることにしよう。

『堺枯川』の生涯（1）

九大助教授　川口武彦

（一）

日本的ないい方だが、堺枯川は九州、とくに福岡が産んだ社会主義運動の大先駆者である。日本社会主義運動史で幸徳秋水の名を知つている人は多いが、堺枯川を知らない人がある。しかし幸徳を知つていて堺を知らない人があるならば、おそらくその人は幸徳を知らない人であろう。幸徳、堺は日本のれい明期の運動の偉大な先達であり、この二人は切つても切れない関係にあつたのだから。

堺枯川の本名は利彦といつた。堺は枯川の名のほかに、後年貝塚渋六の名を用いたことがある。まずこれらのいわれを簡単にのべておくのも興味があろう。枯川の名はかれの大阪在住の青年時代にはじめて用いたが、これは「かれ野」「かれ川」などという当時のかれの俳かい趣味の産物である。これにくらべて貝塚渋六の名はなかなか皮肉である。かれは明治四十一年のいわゆる赤旗事件で千葉監獄に二年の獄中生活を送らなければならなかつたが、（後にのべるようにまつたくたわいもないことからでつちあげられたのがこの赤旗事件であり、しかも仲裁役に立つてこれのまきぞえをくつたのだから枯川もまさか二年の獄中生活を送らなければならなくなるとは考えていなかつたであろうが）この出獄後に使用したのがこれであつた。貝塚とは千葉監獄の所在地の名称であり、渋六とはこの監獄での米麦四分六のモツソウ飯をもちつたものであつた。この貝塚渋六氏はときおり堺利彦と共著で書物を書いたりしたが、主として漫文や雑文を書いている。赤旗事件や大逆事件後のあの暗黒時代をこの渋六氏は漫文を書いて、かき消されそうになつた社会主義の火を守りながら生きぬかなければならなかつたのである。

（二）

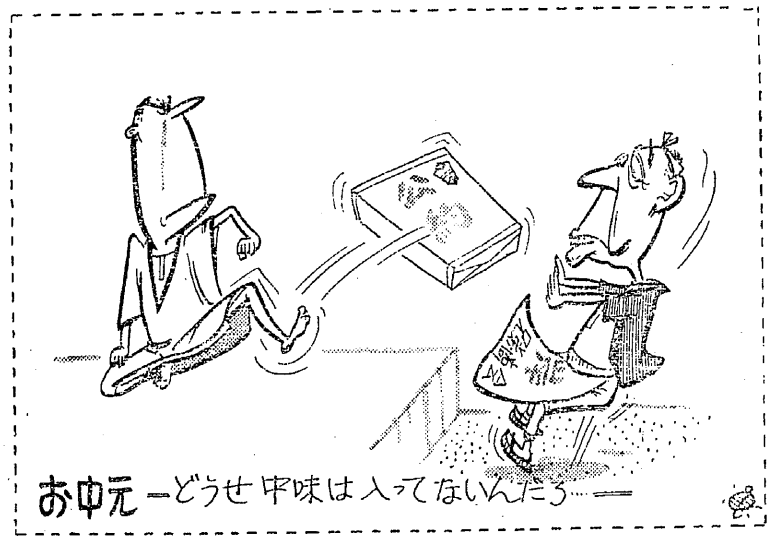
堺枯川は明治三年十一月、小笠原藩の貧乏士族の三男として福岡県京都郡豊津に生れ、昭和八年一月、六十四才の生涯を終えている。

枯川の後半生は極めて波らんにみちた年月であつたが、その前半生もまた、いろいろの遍歴をへている。その少年時代「才子」の名が郷党に高かつたかれは、明治十九年豊津中学を一番で卒業し、同郷の中村家の養子となつて東京に遊学。翌二十年第一高等中学校（のちの一高）に入学した。

しかしかれはここで「飲むことと遊ぶことをおぼえ」てまもなく月謝不納のかどで退学、養家からも離縁されてしまつた。ここでかれはやむなくいつたん郷里豊津に帰らねばならなかつた。しかし、この「堕落の子、失敗の子」を老いたる両親はやはりよろこんで迎えてくれた。

だが、小説一冊をふところにして帰省したほどに、当時のかれは「文学青年になりおおせていた」そして当時すでに早くも短篇小説一篇を福岡日日新聞（現在の西日本）に送つている。しかもこの一篇はかれの自伝がのべているように「同紙に連載されるという不幸に遭遇し」ている。かれの小説家志望の野心は油を注がれたからである。

そこでまもなく小説家としての再起を計つて、かれは次兄乙麿（のちの欠伸といつた）をたよつて、ふたたび郷里をはなれて大阪に出ていくことになる。しかし社会主義者堺枯川への道はまだかなりに遠かつた。ときにかれは二十才であつた。



闘争全国に波及

勤評反対に統一行動

日本中に反対の声が高まつています。そして上文部省が一方的に勤務評定をおしつけようとしています。

西日本地区ではこの動きがとくにはげしく和歌山、高知県ではあくまでも反対しようとする先生たちの間に流血の惨事さえ引おこしています。和歌山県では教組を中心として七者共闘会議（和教組、和歌山地評、県職組、県教育委員会職組、和歌山大学自治会、県高教組、部落解放同盟）がガツチリ足なみをそろえて反対闘争に立ちあがつており、このため教育委員会がフラフラしだしたので、文部省は直接指導者を派遣して現地指導にあたつているほどです。また警察は常時出動体制をつくるなど、くずれようとする委員会をささえているのは権力機関の動員です。

こうしたなかで先生たちは十割休暇をはじめ、早退戦術などをくりかえし果敢に闘つています。

一方、高知でも去る二十六日十割休暇の戦術で一斉休暇に入りました。東京、福岡、和歌山について四番目ですが、県総評傘下の組合員約一万名の子弟たちも登校を拒否して、教組の闘争を支援しています。

日教組では二十五日に全国的な勤評阻止の集会をひらき、約五十万人がこれに参加するなど、勤評反対に大きなもりあがりをしめしています。また、さきにひらいた日教組大会では「勤評反対闘争をあらゆる闘いの中心にする」と強い運動方針をうちだしています。

こうした情勢のなかで教組の闘いはすすめられていますが、とくに激しい闘いをつづけている和歌山高知の教組を支援するため、総評炭労、国鉄など八単産と関西、中国、四国の各府県代表があつまつて共闘会議がつくられ、闘争を支援することになりました。

地元福岡県ではどうなつているのか。県教組では五月六日の一斉休暇をさけようと「六カ月延長して研究しよう」と申入れたのにたいし、頑としてきき入れませんでした。また父兄や地方教育委員会、校長会、大学の教授連からも「実施がはやすぎる」「いままの評定書で実施するのは無理だ」と意見がでましたが、これも踏みにじつて強引に制定を強行したのです。先生たちは自分たちの職場をこわし、民主教育をこわす勤務評定には、こんど何年かかつても反対しますと、悲壮な決意で反対闘争に立上つています。

勤務評定どうなる

荒尾市教育委員長　ふじすえ　かつみ

A　和歌山では、物すごくやつているね。

B　ウム、一寸、私も驚いている。何しろ県教委の課長とか、地教委が反対して、辞職したり、実施しないと云つているしね。それに、父兄とか労組関係の共闘が真剣だね。ちようど、わが三鉱労組と教組との関係のようだよ。

A　では、わが大牟田、荒尾はどうなつているのかね。

B　大牟田はさきに、一斉休暇で強力な抗議が行われたね。実は私と大橋さんは荒尾関係で、大牟田の教育委員は宮浦の湯村さんで大牟田の方は余り静しく知らないのだよ。しかし荒尾のことを書けば大体大牟田のことも似ていると思う……。勿論、県が違うので、そのままではないがね……。

A　それでは、荒尾のことを聞こう。

B　よしきた。ちよつとその前に、県教委、つまり相手の出方を少し話しとこう。時あたかも総選挙の真最中の五月十三日、県は一方的に勤評の実施規則を公布している。そして六月四日玉名市でわれわれに説明会が行われた。そのとき初めて規則書が私たちの手に渡つた訳だが、われわれは今内容を検討している。

A　どんなことが書いてあるかね。

B　まず、今年の実施月日は十月十日だ。つまり、十月十日に校長さんが書かねばならんという訳だ。内容もね、県側にいわせると相当緩和したというんだ。全国教育長会議案の正常分配曲線も除いたというし、五段階を三段階にしたなどといつているがね。A、Aダツシュなどダツシュをつけて結局五つに分けてあるね。しかし正配曲線（五つの枠の中に全部の人員をはめこむ評定の仕方）を止めたのはいかに教組とか与論の闘いに譲歩したかがわかるね。

キレイな勤評

A　そうすると闘争は成功だつた訳だね。

B　なかなか、そうは問屋は卸さんよ。きれいな水爆と云う言葉があるね。気の早い奴はきれいな水爆と書くと、褒老の癌か何ぞかのように、のめばそくと元気になるヤツと早合点しそうな気がするが、何とこれが一度で何百万の人間をうち殺す、熱核爆弾のことだから、浮世に何程か未練のあることにはまず頭い下げにしたい代物だね。学者が「きれいな水爆はありえない」といつているが、それと同じだよ。向うさんは「きれいな勤評」の積りだろうが、「きれいな勤評はありえない」という奴だよ。ある先生が説明会でこつんが話し合つてやるだろう、というのが先生のヒソヒソ話しの意味である。つまり、これが正配曲線という奴だ。何のことはない「きれいな勤評」でも実施しさえすれば「汚ない勤評」と同様の教組破壊、骨抜先生を作り出す目的は達するという訳だね。

A　巧妙な深謀だね。

B　その上県は、指導助言という伝家の宝刀で存分に思う方向にもつて行くだろう。何しろ田舎の教育委員さんなぞ、床の置物のように、マアマアと上に追い上げられ、実権は県の管理主事が握つている有様だからね。

A　熊本県教組はこれに対し、どう闘う積りかね。

B　教組の執行委員から聞いた話しだが、勤評がなくなるまで闘うというのが基本的態度であるというのだ。すでに規則も公布された今日、十月十日までに評定書を校長に出させないように闘いを組んで行くということであるのだが実は荒尾にいると、なぜもつと強力にやれないのだろうかと、疑念を持つだろうが、県下の状況は必ずしも荒尾のように反対一本でまとまつているわけではない。もちろん教組はまとまつているが、たとえば荒尾では市議会、教委、PTA、各民主団体と、厚くて高い反対の壁ができているが、よそではPTA一つ反対決議ができていない有様で、いかに教組が焦つても強力な手が打てないようだ。そこで県下が荒尾の線を目標に啓もう宣伝活動を行うというのが、現在の闘争目標というわけだ。

全市民の闘いへ

A　ほう、すると十月を目途に評定書を出させない態勢をつくるというのが現在の状態なんだね。ところで三鉱労組からも出ているそり隣りの先生に話していたが「見ていてごらん、校長先生たちは皆な話し合つて、Aに何人、Bに何人と枠の中に入れて終うよ。その方が楽だからね」何と、校長さんにとつては自分の学校だけ、A級に多くの人を入れると、県にニラまれそうな気がするし、さればとてC級に余計いれれば先生たちからつるされそうな気がする。一層のことA、AダツシュB、BダツシュCと各クラスに何人宛と話し合つて入れようじやないか、それなら文句いわれる時は皆一緒だからよいだろうと各都市の校長さん方は「市教委はいままでどんな態度を取つてきたかね。

B　市教委は三回にわたつて反対決議している。勿論その内容は少しづつ違うがね。第一回の反対決議は変遷闘争が終つた直後だが「文部省の意図しているような、また変遷のような勤務評定には反対である」という決議だ。その後三回にわたつて県教委が県下教育委員長、教育長会議を招集して勤評賛成の意見一致を図ろうとしたが、私は委員長として県下の圧倒的に賛成の雰囲気の中でただ一人「荒尾は勤評には反対である。実施しないように」という意見を主張したので、ついに熊本県地教委連絡協議会の名による勤評実施の決議はできなかつた。それで、県教委は各地教委の協力なしに規則公布に突込まざるをえなかつたわけだ。そのご四月十七日、文書による反対申入れを県に対して行つたが、それは当時教組が出していた申入れの線と同様のもので「一年間研究期間を設けよう」というものである。しかし当時規則公布を阻止する教組と県教委の対立は頂点に達し、われわれも二十六日遂に「勤評実施を取止められたし」という強力な意見書を提出したその理由の主なるものは五項目あるが、その第一項目に「勤務評定は学校教育に悪影響がある」と掲げている。それから面白いことには、最初、各地教委の会議では圧倒的な勤評賛成の中で孤軍奮闘の荒尾が、三回目の会議のときは相当の反響と共鳴者がでて、反対まではないがかなりの修正意見と、実施延期論がでた。会議がすんでから多数の地教委員長がよつてきて、荒尾の奮闘を激励してくれたことである。私としては、どんな場所ででも自分の信じたことは、主張すれば必ず理解者がでてくるという教訓をえて大変うれしかつたものだ。大体これが市教委のいままでの態度だよ。これから推して当然市教委としてもこんど反対の態度を推し進めて行くのが当然である。PTAもご存知のように十五校の中八校が反対しているが今月の始め荒尾一小の運営委員会で、四山の屋市議などの活躍で反対決議ができ、これで九校の反対となり残りは六校となつた。そこで結論となるが、結局この闘いはやはり労働者、とくに組織労働者の立ち上り如何が運命を決するものと思われる。私達としては先生方とともども、全荒尾市民の闘いとするよう努力しようという訳だ。お互い一生懸命頑張ろうじやないか。

【写真は藤末氏】

ミラード氏来卒

統一問題で懇談会

【写真右側立てる人ミラード氏】

去る二十四日国際自由労連組織部長のミラード氏ら四名（うち外人二名）が来卒、大地評の主催で午後一時から三鉱労組大会議室で各単産の代表者が出席して懇談会を行つた。

この懇談会でミラード氏は「日本の組織労働者は総評と全労に分かれているがこれでは全労働者の力が十分発揮されないと思う。自由労連としては何とかしてこの両組織を統一させたい。私が今日きたのもその努力のスタートにしたいからです」とのべ、統一の問題をテーマとして質疑応答がかわされ懇談を行つた。

日本代表きまる

ストックホルム大会

【KNA】日本平和大会は十五日「軍縮と国際協力のための世界大会」（ストックホルム、七月十六日ー二十二日）に派遣する日本代表四十二名をきめた。代表は中央地方の平和、国際親善、労組、婦人、学生団体、地方議員などからえらばれたもので主な人びとはつぎのとおり。

平野義太郎（日本平和委員会理事長）今中次麿（佐賀大学学長）西園寺公一（世界平和評議員）阿部行蔵（都立大学学長）香山健一（全学連委員長）名和統一（大阪市大教授）竹村一（三一書房社長）宇佐美誠一郎（北大教授）風見章（衆社会党）萩原遼（日本平和委）小笠原貞子（北海道平和委）渡辺家次（炭労中執）足立梅市（三軍県平和委）

なお大牟田からは福岡県社会党県連の小宮市太郎氏が出席する予定